

リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2024年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務		作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋㈱	
工期	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日		作成者	金子 歩夢	
作業名称	漏水対策工	作業手順書	作成年月日	令和6年4月1日	
使用機械 使用設備 (具体的な名称・ クラスを記す)	連絡車、高所作業車デッキ式(12m級)、材料運搬車(トラック)		改正年月日		
使用工具、機器 材料等(具体的な 寸法を記す)	発電機、投光機、ハンマードリル、ハンマー、スパナ、養生テープ、防護カバー、ディスクグラインダー		現場責任者		
	コーキング材、コーキングガン、ウエス、ケーブル防護カバー、インパクトドライバー、接頭ハンマー		協力会社	会社名	
保護具	安全靴、ヘルメット、安全チョッキ(点滅)、防護メガネ、防護マスク、 手袋(耐振動用、耐切削用【ヨーロッパ規格EN388:2016 レベルF】)		作業順序	1	現地確認
	普通自動車運転免許、準中・中・大型自動車運転免許			2	準備作業
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す)	振動工具取扱作業者(特)		3	施工場所確認・材料準備	
	高所作業車(特・技)		4	ケーブル確認・防護	
作業人員 (当作業に関わる役 割と人員を全て記 す)	作業責任者 1人、作業員 2人、保安員 2人		5	アンカー施工	
	合計 5名		6	樋設置	
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)	周知会実施日	令和 年 月 日	7	片付工
	(役割を確認してこの作業に関わる全員が自筆サインする)				

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可 能 性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○△	○×	○○	1:極めて小さい	関係者に対する周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△△	△×	○△、△○	2:かなり小さい	関係者に対する指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×△	××	○×、△△、×△	3:中程度	職長が確認
				△×、×△	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
				××	5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対する指示 1=関係者に対する周知

作業項目 (誰が)	手順 主なステップ	急所 作業のポイント	リスクの洗い出し (予想されるミス・ロス)	可 能 性	重 大 性	評 価 点	リ ス ク レ ベ ル	ミ ス ・ ロ ス	リスクの除去・低減のための 実施すべき事項の特定 (防止対策)
現地確認(全員)									
	作業箇所確認	危険ポイントの確認							
	周辺安全確認	構造物の確認							
準備作業(全員)									
		健康状態の確認・免許・資格等の確認・光物(チョッキ・脚絆・ヘッドライト等)の充電確認・業務用プレートの確認、入場方法・入場箇所・車両順番・役割分担の確認・車両の始業前点検、工具の確認、積み込み荷の確認(落下・飛散対策)荷締め位置、荷台のネット・シート掛けの確認する。工事車両幕がロープ及び養生テープで確実に固定されていることを確認。担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業員へ周知・報告すること。車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲(上下含む)を指差し、障害物が無い事を確認のうえ、出入庫する。							
	ミーティング	健康状態の確認 免許・資格等の確認							
	車両の点検・準備	車両の始業前点検、 工具の確認							
	積荷の確認	積荷の状態	走行の中荷崩れ、飛散養生。	○	×	○×	3	安	トラック積載状態を確認し、飛散対策で積荷を固定・ネット養生する。
工事車両進入	工事車両進入	指定の入口から	移動中一般車両と接触する。	○	△	○△	2	安	道路交通法を遵守する。区間内走行ルール・駐車ルールの厳守
工事車両進入	工事車両進入	指定の入口から	回転灯・逆走時ハザードの点灯、50km/h規制、プレート・通行券の確認、幕の設置、十分な照度の確保						
施工場所の確認 材料準備	嵩上げ部材の設置	ドレーンシーラーの設置	ドレーンシーラーを張り付けず設置し漏水する。	△	×	△×	4	品	職長が準備の際に全部材設置したか確認する。
ケーブル確認・防護	埋設物・仮設物の確認	管理用図面での事前確認	図面、現地の確認をせず損傷させる。	△	×	△×	4	公	作業員全員で確認、ケーブルカバーを設置し立会者を設置する。
アンカー施工	樋の仮設置	墨出し作業	削孔位置がずれ、樋バンドが装着できない。	△	○	△○	2	品	施工箇所を明るくし、事前にケーブル位置を確認する。
アンカー施工	アンカーの施工	ハンマードリルによる施工	削孔する際、粉塵が目や口腔内、鼻腔内に入る。	△	△	△△	3	安	保護メガネ、保護マスクを着用し作業を行う。
アンカー施工	心棒打ち込み式アンカーの施工	接頭ハンマーの使用	アンカー打込み際、打ち込みを適に行いピンが曲がる。	△	△	△△	3	品	径の小さいアンカーとなるため接頭ハンマーによる打ち込みの際は丁寧に扱う。
樋設置	パントによる固定	バンドの取付位置	バンドの取付位置及び取付数量を間違え、樋が落下する。	△	×	△×	4	安	別紙図面の通り420~450mmピッチでバンドを1本あたり7本設置する。
樋設置	ナットの緊結	締め付け工具の使用	ロックナット仕様になっており、アンカー本体と一緒に空回りしてしまう。	△	○	△○	2	品	ロックナットになっているため最後の緊結作業は手動による締め付けを行う。
後片付け (責任者、作業員)	清掃								工事車両幕を取外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事